

## 2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	稲増 一憲
論文執筆者名	田島 綾乃
論文の題 (テーマ)	オタクが持つメタステレオタイプによる趣味開示抵抗感の検討
簡単な内容 (概要)	<p>本論文は著者のオタク活動アカウントTwitterを通じて募集したWebアンケートにより、自身がオタク趣味を持つことを他者に開示する際の抵抗感が、何によって生じているのかを検討している。自身がオタクだと考える567名の方からの回答を分析した結果、過去にオタクであることで他者から自分が排斥されたり、誰かが排斥されているのを見たことがある場合に、他の人びとがオタクに対して「根暗だ」「一般常識に欠ける」「話しかけにくい」といったネガティブなステレオタイプを持っていると考え、他者に話す・公共の場でグッズを身に付けるなどによって、趣味を開示することに抵抗を感じるという結果が得られた。</p>
推薦の理由	<p>現在、日本のアニメ・マンガ・ゲームは海外にも広がっており、区内のニュース等で取り上げられることも多い。したがって、たとえば宮崎勤事件が行った当時のようなオタクに対するネガティブなステレオタイプは薄れていると考えられる。しかしながら、多くのオタクはオタク趣味を持つことを積極的に開示しながら、とくに著者自身を含む女性オタクの中には、オタクとばれないように、服装やふるまいに気をつけ、趣味を積極的に開示しない人々が多いという。</p> <p>このように自身の経験や観察から生じた疑問について、社会心理学の先行研究を調べることで、丹念に調査項目を作成し、調査・分析を行った点が評価できる。</p> <p>また、論文概要に示したメインの分析結果以外にも①オタクであることで自身が排斥を受けた経験を持つ人は15%程度と少ないものの、他者が排斥を受けているのを直接見た人は半数以上おり、また、メディアでオタクが排斥されている場面を見たという経験は、ほとんどの人が持っていること、②自分達をオタクの典型と考え、他のオタクへの仲間意識を持つことはできているものの、オタクであることに誇りを感じることはできていないといった結果が明らかになった。これらは、日本社会の中でオタクがどのように捉えられているかを検討する上で重要な知見といえよう。</p>